

## B-19 乳児用衛生用品についての研究 (第4報) テビロン衛生加工布の殺菌, 制菌効果

福岡女子大 平松 園江  
○高木 葉子

1. 最近, おむつ, おむつカバー等に使われている衛生加工布(木綿)がいずれも当初おむつかぶれの予防に効果を示すが, この効果は2~3回の洗濯処理によって極度に減少すること, またビニールフィルム作製過程に殺菌剤を混入したものは洗濯後も長期間に亘り効果が持続すること等を Halo-test により明らかにして第3報で報告した。続いておむつ用として市販されているテビロン布の紡糸過程にサニタイズ® 各種殺菌剤, 有機錫化合物トリプトン®, フェノール系誘導体オコノドール® 等の殺菌剤を混入した布および製織後衛生加工した布について, おむつかぶれの原因菌 *Brevibacterium ammoniagenes*, アンモニアの発生をうながす *Proteus* 菌等に対する殺菌, 制菌効果と洗濯後の効果の持続性を明らかにするため本実験を行なった。

2. 普通寒天平板培地上に菌液をぬり, 1.5cm 平方の試料布をのせて 37°C で 24 時間培養後阻止帯の幅を測定した。試料布は各種殺菌剤の使用濃度とその2倍濃度に混入したテビロンメリヤス編および平織布, 製織後各濃度に衛生加工した布とである。

3. 製織後衛生加工したものは木綿の場合と同様, 洗濯後極度に効果は減少する。同濃度の布では殺菌剤を混入紡糸した布の方が当初の効果はおとるが, 洗濯後の持続性はすぐれる。しかしこれも長期間に亘る効果は期待出来ない。メリヤス編は Halo-test による阻止帯の幅に差がある。